

様式第 2 号

視察研修先	熊本県山都町	氏名	太田 芳彦
視察研修項目	有機農業について		
<p>&lt;市の概要&gt;</p> <p>位置：熊本県の東部、九州の中心に位置し、北部は阿蘇の南外輪山、九州脊梁山地に囲まれ緑川（有明海）、五ヶ瀬川（太平洋）の流れにより起伏に富んだ溪谷美を形成している。</p> <p>基幹産業：農林業町域の約 78% 山林・原野、約 9% 田・畑等の農用地</p> <p>標高と気候：200～1700m 準高冷地の気候の中山間地</p> <p>農業：中山間地特有の冷涼な気候と寒暖の差、清らかな水とミネラル豊富な土壌を活かした、お米や夏秋野菜の生産が盛ん（トマト、キャベツ、茶、イチゴ、ブルーベリー、栗、椎茸、柚子等）</p> <p>面積が 544.67Km<sup>2</sup> で人口が 13,503 人で経営耕地面積が 2,958 ha。</p> <p>◎有機農業</p> <p>化学肥料や化学合成農薬、遺伝子組み換え技術を使用しない自然との調和を大切にしながら行う環境にやさしい農法</p> <p>●有機 J A S</p> <p>2～3 年以上有機的な管理を行った農地について、毎年認証機関による栽培記録などの厳しい審査が必要。山都町は有機 J A S 認証事業者数が全国最多の「有機農業全国 No.1 のまち」</p> <p>●くまもとグリーン農業</p> <p>土づくりをして、化学合成された農業や肥料をできるだけ減らした環境に配慮した農業のことを「くまもとグリーン農業」と呼んでいる。</p> <p>●SDG s 未来都市</p> <p>自治体による SDG s の達成に向けた優れた取り組みを行う都市として、「SDG s 未来都市」「自治体 SDG s モデル事業」に設定 (R3) テーマ「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がる町の実現」</p> <p>●オーガニックビレッジ宣言</p> <p>今まで守られてきた美しい自然環境を次世代に繋いでいくため、今後も環境に配慮した有機農業を推進していく、として、山都町として「オーガニックビレッジ宣言」を行った (R5)</p> <p>●品目</p> <p>米、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜、レタス、だいこん、玉ねぎ、じゃがいも、にんじん、さといも、きゅうり、ピーマン、トマトなど</p> <p>●出荷先</p> <p>町内の販売事業者、個人宅配、生協、直売所、JA（有機米）など</p>			

町内流通事業者：(株) コープ有機九州支所、(株) 肥後やまと、(株) 土のめぐみ  
多くは都市部のスーパーや生協等に流通し、需要に対し供給が足りていない

●町内の利用

- ・有機農産物の取り扱いがある飲食店 9店舗
- ・道の駅通潤橋などで有機農産物を販売

<学校給食・山の幸たっぷりの給食>

●山都町の小中学校

- ・小学校5校、中学校3校 計8校児童生徒 704人 (R7)
- ・全校自校方式
- ・完全米飯給食 (H29～)

<有機農業の支援>

●山都町有機農業サポートセンター

有機JASの相談、アドバイス、栽培技術、施肥設計、栽培検証などのサポートを行う「山都町有機農業サポートセンター」を開設 (R5～)

●有機米生産へのサポート

- ・アイガモ農法の必要経費 (アイガモ、エサ代など) を補助 (R5～)
- ・アイガモロボットの実証実験 (R4、R6)
- ・フィールドマイスターの実証実験 (R6)

●持続可能な農業の推進

- ・堆肥の生産利用に必要な施設の工事、機械導入の補助事業 (R5～)

●学校給食の有機農産物利用拡大

- ・学校給食の一般米と有機米の差額分を支援 (R3～)
- ・有機野菜の購入を支援 (R5～)

<感想>

上記に書いていませんが、新規就農や研修制度などにも触れており、59歳未満で、山都町で就農することが条件になっており、新規就農時期が終わったから終わりではなくて、山都町で暮らせるようになるまで面倒見てくれる所が素晴らしいと感じました。本市も山都町のように新たに就農した人の生活が成り立つような支援をしてほしい。

様式第 2 号

視察研修先	熊本県益城町	氏名	太田 芳彦
視察研修項目	震災被害及び公共施設の復旧について		
<p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置：熊本県のほぼ中央からやや北寄り、熊本市に隣接し交通利便性にすぐれた町また、空港や IC（2 か所）があり、空と陸の玄関を有する。</li> <li>・人口：震災までは人口増加傾向で人口は 34,499 人（2016 年 3 月時点）</li> <li>・産業構成：3 次産業が 69% と多い</li> <li>・特色：町全域が熊本都市圏の都市計画区域 元々は農業を基幹産業として発展したまちで主な特産品はスイカ、メロン、さつまいも、太秋柿等</li> </ul> <p>&lt;熊本地震による被害状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●熊本地震の特徴：2 度の震度 7</li> <li>①前震 2016 年 4 月 14 日（木）21 時 26 分頃でマグニチュード 6.5</li> <li>②本震 2016 年 4 月 16 日（土）1 時 25 分頃でマグニチュード 7.3 前震と本震の間が 28 時間であった</li> <li>③度重なる余震：震度 7 が 2 回、震度 6 強が 2 回、震度 6 弱 3 回、震度 5 強 5 回、震度 5 弱 13 回、震度 4 以上 145 回、震度 1 以上が 4,484 回（2016 年 4 月 30 日まで）</li> <li>④震度 7×2 を経験したのは益城だけで震源地はいずれも町外だった。</li> <li>⑤人的被害：直接死 20 名 震災関連死 25 名 重症 135 名</li> <li>⑥住宅被害：全壊 3,026 棟、大規模半壊・半壊 3,233 棟、一部損壊 4,325 棟計 10,584 棟で被災家屋は全体の 98% で町全域に甚大な被害であった。</li> <li>●町有施設全 58 施設中 48 世帯が被災するなど、甚大な被害が発生した。</li> <li>●復旧には技術系職員を中心に多くの人材と多額に財源が必要になった。</li> <li>●熊本市のベッドタウンとして、年々増加していた人口が熊本地震の影響を受けて大幅に減となった。※約 1,500 人が減少した。</li> </ul> <p>&lt;震災直後の様子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①無残に崩れる家屋・道路・施設など現実とは信じがたい光景だった。</li> <li>②損傷により機能不全に陥る中、人や物資が押し寄せて混乱した。</li> <li>③ほぼ全ての住民が避難者に避難所は混乱状態になった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・度重なる余震の恐怖などから、車中泊する避難者も多数。</li> <li>・避難者が殺到しスペースがいっぱいの避難所。</li> <li>・プライバシー確保のため、パーテーションを導入。</li> <li>・避難所に入れないペットのための避難ゲージを設置。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;震災直後の課題&gt;</p>			

●災害時緊急輸送道路（主要道路）が沿道家屋により遮断されたため、救援活動や物資運搬に支障をきたした。

①災害に強い道路ネットワークの構築が課題。

●ほぼ全ての住民が避難者となったため、避難所は大混乱。大規模災害時における多くの課題が浮き彫りに。

・度重なる余震の影響で、青空避難者や車中避難者が町内全域に存在。

○避難者の全容把握は非常に困難を極めた。

・健全者が押し寄せたため、要配慮者が福祉避難所を利用できない事態に。

○トレーラーハウスやユニットハウスを避難所として活用した。

・支援物資が大量に届いたことによる仕分け・配分などで現場は混乱した。

○物資の偏りをなくすための、適切なオペレーションが必要。

①避難所の運営改善をはじめ防災力強化が急務。

●役場本庁舎自体の被災や、職員募集状況の実把握などが初動対応の遅れに繋がってしまった。

①災害対策本部の機能強化が課題

<復興の取り組み>

①庁舎が被災したため、2017年5月より仮設庁舎に移転。旧庁舎敷地内において、新庁舎完成。2023年5月より業務開始。

②総合体育館の復旧は建て替え工事を行い、2020年7月から供用開始。

③罹災証明書の交付や各種相談窓口の開設など、様々な被災者支援を展開。

※復興の取り組みについては他にも多数あり！！！！

<感想>

説明の中で、2度の大地震に遭遇したが、人的被害が少なかったことが不幸中の幸いであったが、夜間の地震で火を使っていなかったために火災がほぼなかったことが幸いしたと思うとの結びでした。

## ◎施設見学①益城町新庁舎②給食センター

<新庁舎の建物概要>

・階数：地上4階建て

・構造種別：免震構造、鉄骨鉄筋コンクリート造

・昇降機設備：乗用EV15人乗り2基（1基はトランク付）

●新庁舎に求められる構造

①耐震構造 地震の揺れに耐える

②制振構造 地震の揺れを吸収する

③免震構造 地震の揺れを直接伝えない

「2011年東日本大震災」や「2016年熊本地震」で、改めて免震構造の優位性が確認された。

本庁舎においても大地震直後の被害の少なさ、庁舎機能の維持と復旧の速さを考

慮し、免震構造で建設する方針を決定した。

●新庁舎建設事業費

- ・単独災害復旧事業債を活用：充当率 100%一般財源の歳出を抑制
- ・全体の事業費は 51 億円で、町負担額は約 15 億円

●新庁舎レイアウト

- ・1 階：1 階フロアは総合案内をはじめ、窓口利用者が多い課が集約され、利用者の利便性を配慮した構成です。
- ・2 階：町長室をはじめ、事業系の部署を中心に配置した。木の温もりを感じさせるフロアデザインとなっている。
- ・3 階：対面演壇式の議場が誕生した。車椅子や親子で気軽に傍聴できる傍聴席を設置した。
- ・4 階：吹抜け議場の上部や書庫のほか庁舎に必要な電気・機械の重要な設備を配置している。

<益城町学校給食センター>

●施設の状況

①調理室及び食器洗浄室

壁面・天井等に著しい破損が有り建物内壁及び設備等の落下崩落の恐れがあるため、現在立ち入り禁止とし使用不可能である。

②上下水道

施設内及び施設外で断裂のため使用不可。最小限の修繕が必要。現状では、手洗い及びトイレの使用ができない。

③電気

電圧制御装置（キューピクル）の破損により動力電源（200V）の使用ができない状況である。100Vのみ使用できる。

<はじめに>

平成 28 年 4 月の熊本地震で益城町学校給食センターは被災し、復旧には移転建て替えが必要になり、そのような中、翌月の 5 月 9 日には町内の小中学校が一斉に再開し、学校への給食提供が必要となった。調理施設の再稼働の見込みがない中、益城町学校給食センターがどのような形で給食の提供を行ったのか事例を紹介し、今後の大規模災害時の学校給食実施の参考になれば幸いです。

●地震に弱かった給食施設について

地震の発災当時学校給食センターは築 37 年を経過し建て替えるの計画を行っていた。4 年後には新センター整備に莫大な費用がかかるため、センター施設では、軽微な修繕を行いながら稼働していた。建物は耐震基準を満たしておらず、また、震度 7 の地震も想定していなかったため今回の地震を受け、建物の損壊をはじめ、大型の調理機器・洗浄機の転倒損壊、ボイラー機及び配管・上下水道の配管の破損断裂、キューピクルの故障等の被害が大きく、予防ができていなかった。

●まとめ

学校運営に給食は欠かせません。今回の地震で益城町給食センターは被災し、復旧には3年かかりました。新センターの整備が完了するまでの3年間、多くのご支援をいただきどうにか乗り切る状況です。しかし、災害や施設の改修・故障などの様々な要因で、調理施設の機能が停止する場合があります。今回の大地震による被災を教訓に、非常時の学校給食の提供の可能性を高めるためにも、学校給食提供計画（簡易給食の食材調達ルートの確保・お弁当業者の確保）の作成や施設整備計画の見直し、調理機器の固定等による被害の最小化及び調理員の労働安全面の確保が必要です。また、最悪の事態を想定し、広域連携による近隣自治体との協定など、この機会に検討いただきたいと思います。

<感想>

やはり、災害も起きてみないと、ああすれば良かった、こうすれば良かったと言ったことが見えない部分があって今回の視察になった訳ですが、大変参考になりましたし、災害はくるんだとの意識をもって今後の議会活動へ望みたいと思います。

様式第2号

視察研修先	熊本県熊本市	氏名	太田 芳彦
視察研修項目	防災・減災の取組について		
<p>&lt;熊本地震の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人的被害：死者90人（直接死6人関連死84人）重傷者772人</li> <li>●避難所・避難者数：避難所267箇所 避難者数110,750人</li> <li>●住宅被害：全壊5,764件 大規模半壊8,972件 半壊38,964件 一部損壊82,985件 計136,685件</li> <li>●宅地被害の状況：がけ崩れ被害戸数約4,300戸 液状化被害戸数約2,900戸計約7,200戸</li> <li>●熊本城：市民のシンボルの無残な姿、花見のシーズンで日中に地震が起きていたら多くの人的被害が予想された</li> <li>●道路被害：想像を絶する被害状況（道路の陥没で2メートルの段差が出来た）</li> <li>●ショッピングモール：天井が落下しあわや大惨事（ピーク時は6000人超えの利用客）</li> <li>●車中泊：グラウンドが避難した車で一杯（余震の恐ろしさを物語る）</li> <li>●避難者11万人超え：指定避難所だけでは足りなくなった</li> <li>●校舎被害：教育にも大きな影響が及んだ（体育館をボードで間仕切りし教室に見立てた）</li> </ul> <p>○市役所の実情！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の安否も不明、参集状況も把握できない</li> <li>・ほぼ全職員初めて経験する事態に動揺</li> <li>・次から次へと殺到する電話対応に忙殺される職員</li> <li>・役に立たなかった既存の対応マニュアル</li> <li>・庁舎・区役所のフロアにも多くの避難者が押し寄せる</li> <li>・何からどうしていくのか態勢づくりに1～2日間混乱が続く</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●痛感したこと</li> <li>・突如災害に襲われた直後に市役所は ” 通常の行政機能を保てない”</li> </ul> <p>&lt;浮き彫りになった災害対応の課題&gt;</p> <p>{課題1} 避難所</p> <p>①避難者支援の限界</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所開設の遅延</li> <li>・避難所のカギを持っている先生と翌朝まで連絡が取れない（施設管理者等の判断で開錠）</li> <li>・職員の避難所開設マニュアルに未精通</li> <li>●まったく足りなかった備蓄物資</li> </ul>			

●避難所へ届かない支援物資

②職員中心の避難所運営体制の限界

- ・職員は重圧に焦りと疲弊！ 避難者は不信感と不満！



避難所運営の非効率

●地震直後の市民5,000人意識調査アンケート

Qあなたは避難所運営に関わった？

- ・関わった17.1%・全く関わっていない49.7%・無回答等33.2%

○約半数がいわゆる「お客様」状態

③避難者の状況が把握できない

- ・余震の恐怖に多くの避難者が車中泊やテント泊、何処に？どのくらいの避難者がいるのか？

④避難所の数不足

- ・体育館（25箇所/全139箇所）が被災し開設できず
- ・避難者数が2,000人を超える避難所も

⑤多様な事情を抱える避難者対応の課題

- ・物資配給の列に並べない「要配慮者」への対応
- ・福祉避難所は一般避難者が押し寄せ役目を果たせず
- ・ペットから離れられない飼い主は車中泊
- ・女性や外国人避難者への配慮

{当時の改善策}

- ・地域ぐるみで「要配慮者」への対応
- ・ストレス軽減のためのプライバシー確保
- ・乳児を抱える母親に配慮した避難所環境
- ・性被害防止チラシの配布
- ・外国人対応の避難所

{課題 2}

①デマ、誤情報と情報発信

悪質なデマ情報や誤情報に振り回される職員や避難者

②孤立する避難所・情報難民

本部から避難所の状況見えず・本部に要望届かず、孤立する避難所・情報難民

{課題 3} 備蓄・支援物資

①不足した備蓄と混乱した物資配送

- ・ピーク時は100台が連なる！
- ・荷下ろしに最大8時間待ち！

●マンパワー頼りの非効率な荷下ろし（対策として、パレット積みの輸送トラックにお願いし、荷下ろしは民間委託とした）

{課題 4} 被災者支援・受援

①罹災証明の発行が難航した

●約136,000件の家屋調査！

●1日数件程度の進捗！

●圧倒的なマンパワー不足！

●証明書発行システムの課題

<経験を踏まえた対応と備え>

{熊本地震と議会对応}

- ・発災直後、議員も避難者支援に地域を奔走
- ・市対策本部に対し、随時、指摘や要望
- ・個人ではなく議会としての対応の重要性

<現在の対応>

①予防的避難時の避難場所運営マニュアル

・令和2年の台風10号の際に、避難場所の開設や対応において多くの課題が明らかになった。

・この経験を踏まえ、予防避難における避難場所開設運用や指針等を体系的にまとめた「予防的避難時の避難場所開設・運営マニュアル」を作成

・地域と行政が協力し指定緊急避難場所の連絡体制や運営等がスムーズにいくよう開設から閉鎖までの流れについて記載している。

②小中学校の校舎（教室）利用

・熱中症対策・垂直避難対策・感染症対策・トイレ環境対策

③ペット同伴避難場所の設置

・九州動物学院、水前寺陸上競技場の2箇所に開設

④福祉避難所の設置

・福祉避難所数199カ所

・指定避難所等に避難された方の中で、要配慮者とされる方の状態や受け入施設状況を踏まえ、保健師等によるスクリーニング・トリアージを実施し、要配慮者に適した施設のマッチングを行った上で、案内する。

<感想>

訓練を通じた防災力の向上を目指し頑張っているようですが、その中でもマンホールトイレの組立訓練やそれに伴う設置訓練等々、被災者には一番困るのがトイレ問題と思うので本市にも設置を呼び掛けていきたいと思えます。

まだまだ書ききれないほどの貴重な話をお聞きすることができ、大変参考になりました。